

コラム

編集・発行：金浦区自治会
発行日：2022. 4. 5

大学院生による研究報告会

「近未来の但馬の地域資源を考える」



先々月の2月27日（日）、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科で学ぶ12名の大学院生による研究成果報告会が県立コウノトリの郷公園内で開催されました。コロナ禍の中でもあり、Webサービス（ZOOM ミーティング形式）で実施されました。この報告会に、波多野哲哉さんが出演しました。スマホの画像で視聴しましたので、その一端を紹介します。

幼い頃から昆虫などの生物に強い関心を持っていました。朝来市役所に就職してからも、自然やチョウや昆虫に興味を持ち活動もしてきました。そして、2年前に朝来市からの派遣という形で学ぶ機会を与えて戴き、生物や環境について「学び直し」ができました。文系出身が理系に挑戦したこと、また、苦手なPC操作や年齢など多くの障壁がありましたが、多くの方のご協力を得て無事修了することができました。

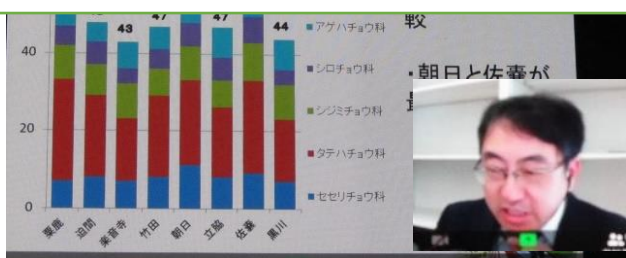


【研究の概要】

修士学位論文のタイトルは「チョウ類群集を指標とした自然環境の評価と活用～兵庫県朝来市の調査を事例として～」です。なんだかむずかしそうな感じですが、そんなことはなく、ざっくりいうと「朝来市内で決まった調査地を作って調査して、どんなチョウがどれだけいるかを調べた結果、その場所はどれぐらい自然が豊かかを明らかにした」というものです。

市内8か所で調査した結果、合計72種、14,111匹のチョウが確認出来ました。兵庫県内や全国の同じ方法で調査した結果を比べてみても、まずまず高い水準で「自然が豊か」であるということがわかりました。また、同時に調べた花は488種確認でき、その中で102種はチョウが蜜を吸っていたのです。このことから、当然のことですが、チョウと花は切っても切れない関係だということを数字で明らかにしました。さらに、私が以前勤めていた西宮市立山東自然の家周辺の20年前のデータと今回の調査との比較を行った結果、49種が共通で見られ、14種が減少、5種が新たに確認できました。減少したのは森林性のチョウが多く、増加したのは南方から入ってきたチョウだということがわかりました。また、減少の理由の一つはシカが非常に増えて、チョウの幼虫が食べる草や食べ物である花を食べた可能性があります。

この研究の成果は、学術（地球温暖化等）、地域の活性化、環境教育、観光経済活動等に貢献できると考えています。みなさんとこんな話をする中で、身近な自然環境に目を向けてもらえるきっかけになればいいなと思っています。



この2年間の学生生活は、想像以上の楽しさと想像以上の苦しさを経験しました。でも、投げ出さずに最後まで走りきれたことは、ほっとしたと同時に大きな喜びと自信を与えてもらいました。今後は、金浦区内でも調査をしたいと思っています。結果をお楽しみに！（^^）/